

# 会計ソリューション「INCSTAC」の紹介



金融ソリューション本部 加藤 肇

## 1. はじめに

当社の金融事業ユニットでは顧客のシステムニーズを最大限生かすべく、受注生産型のシステム開発を続けてきた。今もその傾向に変わりはないが、こここのところの金融不況による顧客の志向の変化が無視できない状況になりつつある。その変化とは「品質」重視から「低コスト・早期導入」重視である。またハードの目覚ましい進歩も見逃せない。従来であればホストマシンでなければ到底無理であったと思われる業務処理も PC レベルで十分対応可能なケースが出てきている。つまるところ、受注生産型のホストシステムに替わって、パッケージをベースとしたオープンシステムを導入しようとするケースが増えてきたということである。

このような背景を踏まえて、当社の金融事業ユニットでも、今まで培ってきた業務ノウハウを1つのソリューションとしてまとめ上げ、それを製品化する方向での事業展開も進めている。今回はそのソリューションの一例として国際業務パッケージである「INCSTAC」を紹介する。

なお、「INCSTAC」とは、INClusive かつ STAbLe かつ Comfortable な会計ソリューションという意味合いで、頭文字をつなげた名称である。

## 2. 「INCSTAC」の機能概要

「INCSTAC」は国際業務、すなわち海外拠点業務のバックオフィス・システムという位置付けで構築されている。すなわち海外拠点における運用側、調達側取引の管理から多通貨会計方式の決算処理までをサポートしている。さらにシステムに保有しているデータを元に、各種還元帳票の出力や、収益その他の管理データ作成用データ・ダウン

ロード機能を有している。

これらの機能は拠点単位に実行されるわけだが、最小構成でグローバル運用を可能にするために、1つのサーバーで複数の拠点を一括して管理できるようにもなっている。

機能の全体イメージを図1に示す。

ここで一般的な貸付業務のオペレーション・フローについても紹介しておく。

実際の画面フローは次々ページの図2のとおりとなる。

まず初めに貸付契約の基本条件を登録する。ここでは契約の基本条件の登録と、社内管理情報の登録を行う。ここで登録された際に採番される取引番号が親番号となり、以降登録していく内訳口に引き継がれていく。

次に、キャッシュフローを展開するためのスケジュール条件登録を行う。ここでは内訳口単位に元本の償還、利息の受け入れ、利息算出に必要な利率、それぞれのスケジュールを作成するための条件を登録する。ここで登録された条件にしたがって、元本、利率、利息の各スケジュールが自動的に生成される。もちろん自動生成されたスケジュールを、後ほど手入力で修正することも可能である。

登録されたスケジュールは期日が到来すると決済する必要がある。ホスト等の勘定系システムでは夜間バッチ処理の約定処理によって自動的に行われるが、当システムではオンラインで決済するため、オペレーションが必要となっている。対象となる取引の抽出は自動的に行われるので、オペレーションと言ってもユーザーの負荷はそれほどでもない。なお、この決済オペレーションを実施すると同時に各スケジュールに付随する伝票起票が行われ、関係する会計のデータベースが更新される。

また導入方法については、取引管理と一体で導入することで、その効果が最大限発揮される。だが、会計機能だけを切り出して導入することも可能である。ただし、その場

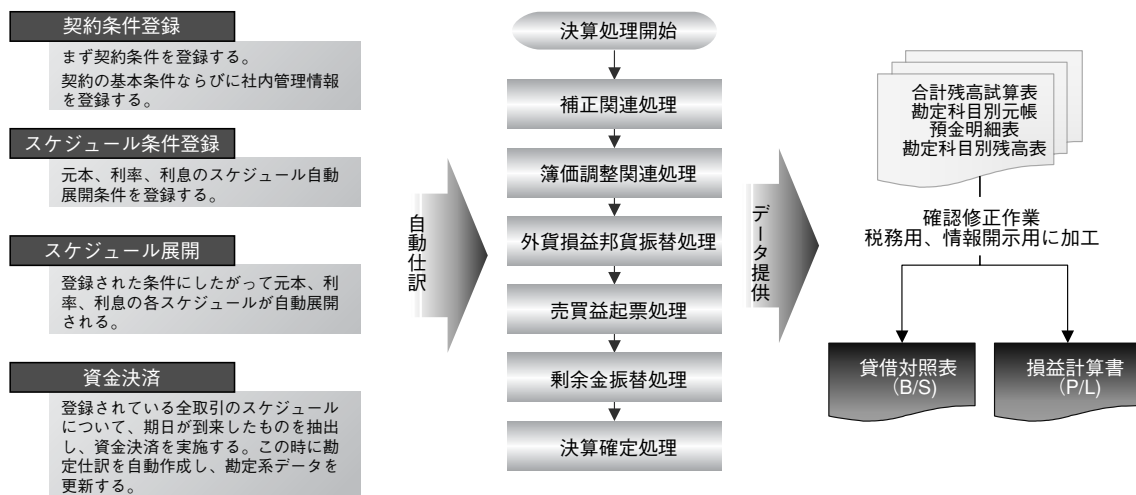


図1 システム機能概要

合には多通貨会計決算の帳簿管理としての活用に留まり、各取引からの伝票起票はシステム間インタフェースによるバッチ更新となる。

導入事例を次々ページ、図3に示す。

### 3. 「INCSTAC」の導入効果

現在、金融業界、なかでも銀行では多くの基幹系システムのリライト時期を迎えている。そして基幹系システムの中でも国内系システムよりむしろ国際系システムの方が、よりその傾向が強いと思われる。多くの邦銀は再編の波に揉まれ、システムの統廃合が行われてきた。本来であれば国内系システムの更改がほぼ完了し、そろそろ国際系システムを更改しようとした矢先の統廃合である。膨大なシステム統廃合のために、これまた膨大なリソースが投入され、とても国際系システムの更改に着手する余裕がなくなってしまった。しかし、どちらかと言えば二の次に追いやられていた国際系システムも、その多くが十数年前に稼働を開始しており、サポート期限の到来やシステム変更にかかる保守コストの増加などによって、メンテナンスが限界にきているのも事実である。

このように限界がきてしまったゆえにシステムを更改しなければならないといった状況で、ユーザーが必ず掲げる要求は「安定した高品質のシステムを、安く、早く導入したい」である。ユーザーの立場からすれば至極まっとうな要求ではあるが、実際には上で掲げた3つのポイント、「高品質」、「低コスト」、「早期導入」を実現したシステム導入事例はあまり多くない。特に金融系の基幹系システム導入の場合にはなおさらである。安定性はあっても導入コストが膨大であったり、低コストではあっても品質が極めて悪かったり、という具合に何かしらのポイントが欠けているのである。

「INCSTAC」の導入メリットはまさしく「高品質」「低コスト」、「早期導入」の実現にあると言っても良い。その3つのポイントに対する解を提示できるシステムとして構築されている。

まず「高品質」という点においては、長年当社が様々な金融機関顧客の国際系システムを構築してきたノウハウを結集させたシステムという点が挙げられる。ホストマシンの時代はもちろん、現在のオープン系まで幅広く手掛けてきたシステム構築ノウハウを結集させたがゆえに、品質の高いシステムが実現できたわけである。

「低コスト」という点ではどうであろうか。必ずしもパッケージだから「低コスト」で導入できるとは限らない。現在、パッケージ・ソフト製品は数多く存在している。しかし、自社開発並のカスタマイズをしないと導入できない製品もあり、実質的な稼働までには多くの時間とコストが必要となってしまうケースが多々ある。

「INCSTAC」では本来持っている機能でユーザー要件のかなりの部分を網羅できると考えている。またオブジェクト指向設計を採用しているため、カスタマイズも容易である。さらに稼働環境も Windows2000のPCサーバーであるため、インフラコストも低く抑えることが可能である。こうした様々な要因により「低コスト」での導入が実現できる。

また、「低コスト」を実現するための要因には「早期導入」も切り離して考えることはできない。一般的な導入スケジュールで考えてみると、同規模のシステムを一から構築した場合と比較して、半分以下の期間で導入可能である。次々ページの図4に示したように、通常の開発では約1年半かかるところが約8ヶ月で導入できる。

このように「INCSTAC」はユーザーの求める3つのポイントである「高品質」、「低コスト」、「早期導入」を実現しているのである。

契約条件登録→貸出・償還スケジュール登録→スケジュール展開（自動展開）→資金決済 の流れを表示する。

**STEP1：契約条件登録**



契約条件を登録する画面。  
契約の基本条件ならびに社内管理情報を登録する。

貸出条件および回収条件を登録する。  
この情報を元に貸出・償還・利息スケ  
ジュールが自動的に作成される。

**STEP2：貸出・償還スケジュール登録**



元本	利率	利息計算	償還スケジュール	償還金額
2017/10/04	9.00	6,489.48	1,499.44	3,990.04
2017/10/04	8.00	6,480.00	4,514.16	1,965.84
2017/10/04	8.00	6,480.00	4,514.16	1,965.84
2017/10/04	8.00	6,480.00	2,738.16	3,741.84
2017/10/04	8.00	6,480.00	2,738.16	3,741.84
2017/10/04	8.00	6,480.00	2,738.16	3,741.84
2017/10/04	8.00	6,480.00	2,738.16	3,741.84
2017/10/04	8.00	6,480.00	2,738.16	3,741.84
2017/10/04	8.00	6,480.00	2,738.16	3,741.84
2017/10/04	8.00	6,480.00	2,738.16	3,741.84

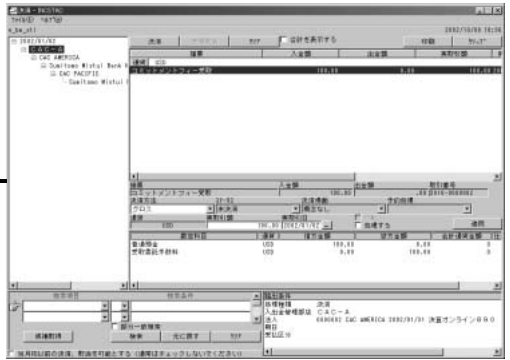
元本	利率	利息計算	償還スケジュール	償還金額
2017/10/04	9.00	6,489.48	1,499.44	3,990.04
2017/10/04	8.00	6,480.00	4,514.16	1,965.84
2017/10/04	8.00	6,480.00	4,514.16	1,965.84
2017/10/04	8.00	6,480.00	2,738.16	3,741.84
2017/10/04	8.00	6,480.00	2,738.16	3,741.84
2017/10/04	8.00	6,480.00	2,738.16	3,741.84
2017/10/04	8.00	6,480.00	2,738.16	3,741.84
2017/10/04	8.00	6,480.00	2,738.16	3,741.84
2017/10/04	8.00	6,480.00	2,738.16	3,741.84

元本	利率	利息計算	償還スケジュール	償還金額
2017/10/04	9.00	6,489.48	1,499.44	3,990.04
2017/10/04	8.00	6,480.00	4,514.16	1,965.84
2017/10/04	8.00	6,480.00	4,514.16	1,965.84
2017/10/04	8.00	6,480.00	2,738.16	3,741.84
2017/10/04	8.00	6,480.00	2,738.16	3,741.84
2017/10/04	8.00	6,480.00	2,738.16	3,741.84
2017/10/04	8.00	6,480.00	2,738.16	3,741.84
2017/10/04	8.00	6,480.00	2,738.16	3,741.84
2017/10/04	8.00	6,480.00	2,738.16	3,741.84

**STEP3：スケジュール展開（自動）**

登録された条件にしたがって自動展開された元本・利率・利息の  
各スケジュール表示画面。各スケジュールは手入力による修正も  
可能。

**STEP4：資金決済**



登録されている全取引のスケジュールについて期日が  
到来したものを抽出し、自動仕訳を実施する。  
なお当日決済の必要な取引の抽出は部店単位に可能。

図2 一般的な貸し付け取引のオペレーションフロー

【導入例1】 会計システムとして利用



【導入例2】 海外拠点システムとして利用



図3 システム導入事例

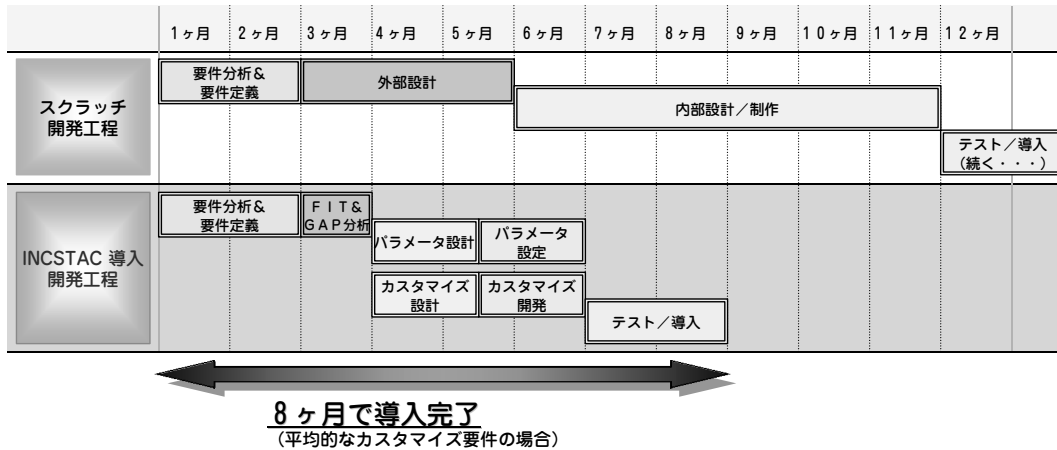


図4 システム導入スケジュール例

#### 4. 今後のINCSTAC

現在の「INCSTAC」はPCサーバー上で稼働するシステムである。PCサーバー上だけでの稼働となっているのは、開発ツールにPowerBuilderというオブジェクト指向開発ツールを使用したことに起因している。しかし、よりグローバルな展開を目指す企業に向けて、対応インフラの拡張が必要な状況にある。そこで現在、「INCSTAC」のWeb版の制作を計画している。言語はJavaを採用し、UNIX、Linux、Windows、と様々なOSで稼働可能なシステムになる予定である。

また、言語のマイグレーションだけに留まらず、対象業務もより幅広く、セキュリティ機能もより強化するように計画中である。

この「INCSTAC」Web化が完了すれば、さらにユーザー

にとっての利便性が増すもの、と考えている。

#### 5. これからはパッケージ導入型がさらに増える

先にも述べたように、経営環境の悪化や、企業競争の激化など、金融業界を取り巻く状況は厳しさを増している。こうした状況下で、コストパフォーマンスの良いシステム導入を模索する動きがさらに強まってきたように思う。また、その対象システムも周辺システムに限らず基幹システムまでが含まれてきているのである。

従来であれば邦銀の場合、まずはシステムの信頼性を重視する傾向が強かった。また、旧来からの独特色を求めため、基幹システムにパッケージを導入しようとか、他行との共同開発をしようなどということはあまり考えられなかった。したがって、全ての基幹システムは銀行ごと

に一から設計し開発するという、オーダーメイド開発となっていた。しかし、この場合には100億円単位の膨大なコストがかかってしまい、かつ業務処理がより高度化、複雑化してきたために品質の安定性も十分とは言えないケースも珍しくない。つまり先に述べた3つのポイントである「高品質」、「低コスト」、「早期導入」のどれも満足しないシステム導入となってしまふのである。これでは現在の金融業界にとっては体力的にも、また戦略的にも耐えられるシステム導入ではない。

では現在の金融業界の体力と戦略に適した基幹系システムの導入はいかになされるべきか、という問題への回答であるが、洋服にたとえるならば、カスタムメイドからイメージオーダーもしくは吊るしへの変換であろう。すなわち、完全に一から採寸して個別注文生産するのではなく、型を選んで作るなり、出来合いのものの中からサイズだけを選んで作るということである。スーツでも同様であるがイメージオーダーだからとか、吊るしだからといって決して品質が劣るとは限らない。システムでも同様のことが言えるのではなからうか。すなわち今の金融業界の体力と戦略を鑑み、考えられる解決策は、スクラッチ開発型からパッケージ導入型への転換ということである。

## 5. 「INCSTAC」は日本型パッケージ

しかし、パッケージ導入にすれば全てが解決するわけではない。再びスーツの例で恐縮だが、吊るしのスーツの場合はどうしても「体をスーツに合わせる」部分というものがでてくる。人間誰しもが標準体型どおりではないからである。システムでも同様で、パッケージを導入する場合に

は、多かれ少なかれパッケージの処理スタイルにユーザーが合わせなければならない部分が出てくる。実は日本の金融業界にパッケージ文化が根付かなかった理由の大半もここにある。なぜならばシステムの存在意義が「人間の処理の肩代わりであり、それはすなわち自分達の持つ旧来の業務フローの自動化である」、との発想が強いからだと考えられる。さらに日本の金融業務システム開発技術の高品質さが、「自分達のスタイルにマッチした」システム開発傾向に拍車をかけてしまったのも事実だろう。

いずれにせよ「自分達のスタイルにマッチした」ものを求めるか、システムは「コストダウンのためのツール」であると割り切るかで、パッケージ導入の浸透度はかなり異なってくる。

現在、中規模または大規模なERPパッケージの多くは海外、それも欧米で開発され、日本の市場に導入されているものであり、細かな部分が日本人の感覚とマッチしていないように感じる。単に感覚の問題だけならば慣れれば解決されるかもしれない。しかし、根本的な処理の流れやシステム導入時の考え方が異なるケースがいくつか見受けられる。つまり先ほど述べた「体をスーツに合わせる」部分がかかなり多くなるということである。

もちろん欧米流でも大変すばらしいところもあるが、日本流でもすばらしいところはある。全て欧米流を導入すれば正しい、というのは明らかな誤解であり、欧米流にいかには日本流の良いところをカスタマイズして導入するかが重要なポイントとなるはずである。

「INCSTAC」は日本流の良いところをうまく取り入れてパッケージ化したもの、言い換えれば日本のユーザーの志向に合致したパッケージである、と自負している。